令和4年度　大田区立東蒲小学校　自己評価　報告書

令和5年3月10日

○　本校の概要

○本校の規模　全9学級　児童数239名(4月1日現在)　教員数18名
○教育目標　①　友達を大切にする子ども　～思いやりのある心豊かな子～　②　運動で体をきたえる子ども　～運動に励み、心身ともに健康な子～
③　本気で学ぶ子ども　～「深い学び」に自ら取り組む子～　④　よく聞き話せる子ども　～対話を通して協働して課題を解決できる子～
○校内研究　研究主題　「進んで考え、互いに学び合う子ども」

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	教員向けアンケートで「プログラミング学習を行っている」「クロームブックを有効活用している」と回答した教員の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	3	・ICT機器を活用した研究授業を各クラス1回以上行った。それにより児童の学習意欲が高まってきた。 ・プログラミング教育についての研修会を、外部講師を招き校内で開催した。それに基づき授業を行い、各学年、専科の授業指導案集を作成している。 ・体力テストでは「持久力」に課題があったため、中休みに全員マラソン(持久走)を実施している。また、体育授業の中でも各クラスの課題に対する取り組みを行っている。	A B C D	8 3 0 0	・外国語の学習成果を学習発表会の内容などにも取り入れるなどして、児童は音楽も交えながらのびのびと発表していた。学習して身に付けたことを表出する力が育ってきている。 ・中休みの持久走の取り組みは、無理なく体力の向上にとても良いと思う。 ・ICTの活用も進められており適正に授業が行われている。プログラミング学習も成果が見受けられる。 ・ICT機器活用を今後も活発に行ってください。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3							
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3							
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3							
		論理的思考力、独創力を育成するプログラミング学習をクロームブック等を活用しながら実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	校内研究に関する児童アンケートで「書くことが楽しい」等と回答した児童の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	3	・放課後補習でつまづきのある児童の補習を行っている。学習カルテを基にクロームブックを活用し、さらに保護者と連携した家庭学習も推進していく。 ・授業改善推進プランはさらに内容を具体化し、PDCAサイクルを意識して取り組む必要がある。 ・「協働的な学び」ついては、タブレットとグループでの対話を併用した授業を各学級で工夫して行うことができた。	A B C D	7 5 0 0	・タブレットを利用したグループでのコミュニケーション授業により、成果をえている。 ・補習も正当な評価をえている。 ・補習の授業は取り残しをなくす上でとても大切です。今後も続けてほしい。 ・学童内でもクロムブックの宿題を楽しそうに取り組んでいる姿があります。学習に対して意欲が高まるのでしょう。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3							
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4							
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3							
		クロームブックを活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を授業、家庭で定着させる。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3							
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	児童アンケートで「友だちと仲良くしている」と答えた児童の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	3	・道徳の授業は充実してきているが、さらに対話を取り入れるなどし、自己肯定感、共感意識の醸成を目指していく。 ・ケース会議(校内委員会)、職員夕会等を定期的に開催し、教員間で児童の情報を共有し、課題解決を図ってきた。不登校児が登校できるようになる、いじめの早期発見、解決ができているなどの成果が、児童が安心して学校に通えることにつながっている。 ・本校いじめ基本方針の共通理解をさらに深めつつ、引き続き学校全教職員の目で一人一人の児童を見守っていく。	A B C D	7 5 0 0	・道徳の授業は充実している。 ・いろいろな問題にも立ち向かえるような正義感を高めたり、人の気持ちを分かち合える心を育てたりし、いじめのない学校を目指してもらいたい。 ・友人、他人のために自己を犠牲にする行為を見たが、心豊かな育ち方は学校の教育の賜物でもあると見受けられた。 ・いじめの根底にあるのは多様性を認めない硬直した考え方だと思います。多様性を認め合う指導を今後もお願いします。 ・学習発表会では、手話、英語、SDG‘sを取り入れた内容もあり、とてもよかったです。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3							
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	生活アンケートで「運動することや外で遊ぶことが楽しい」と回答した児童の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	3	・毎休み時間には多くの児童が校庭で運動を楽しみ、全校児童で3分間走にも取り組んでいる。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の児童への取組、教員研修などは行っているが保護者との連携をこれまで以上に強くしていく必要がある。 ・給食時などに食育・保健の映像を定期的に放送している。	A B C D	8 4 0 0	・体つくりは「早寝・早起き・朝ごはん」です。食育を含めてこの学びを継続していってほしい。 ・休み時間は活発に動いている。「3分間走」の成果を期待したい。 ・コロナ禍での運動不足を「3分間走」で補っているのはすばらしいと思いました。 ・運動会で支援が必要な児童に皆で応援していて学校全体の一体感を感じました。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	学校公開時の保護者アンケートで「学習がわかり基礎的な学力が身に付いている」と回答した割合	4:95%以上 3:85%以上 2:75%以上 1:75%未満	4	・校内研究授業、学校公開、小中連携授業公開では全員が授業公開し、それぞれの教員が新しい発想を取り入れて取り組めた。 ・校内委員会は定期的に行う他に、児童の状況に合わせて臨時委員会も行うことで対応が早くなるなど、個々の児童に合わせた指導が充実し、教員の意識も高まっている。 ・さらにOJTの取組を強化し、若手教員などの授業力向上を図っていくことが課題である。	A B C D	7 4 0 0	・小中連携授業公開は今後も続けていってほしい。 ・個々の児童の実態に適した指導は今後さらに必要になってくる。全児童数の少ない学校であるからこその個に応じた指導の充実をお願いしたい。 ・本年何度か授業を参観する機会を得た。教員が新しいチャレンジに取り組んでいた。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3							
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3							
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
		教職員がそれぞれのキャリアプランを基にライフワークバランスを考え、向上心をもちながら職務を遂行する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
プラン6　学校・家庭・地域が一体となって共に進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	保護者アンケートによる13項目の肯定評価の平均値	4:95%以上 3:85%以上 2:75%以上 1:75%未満	4	・ホームページ担当者が定期的に公開・更新を行っている。ICT機器を今以上に活用し、より多くの情報を発信してく。 ・学校支援地域本部の機能を向上させ、より多くの地域力を生かした教育活動を見出していくことが課題である。	A B C D	8 3 0 0	・これからも更に多くの情報を共有し、学校、家庭、地域が一体となって子供たちの安心・安全な学校生活が過ごせる様に、協育していきましょう。 ・学校公開時、保護者アンケートにQRコードを利用するなど、教員と保護者の距離を縮める工夫を感じた。 ・学校ホームページでさらに情報を発信してください。地域の皆さんも楽しみにしています。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4							
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。